



# 2025年6月期決算説明会

---

2025年8月19日

株式会社キャンバス  
(東証グロース 4575)

キャンバスは、自社創出・複数の臨床開発パイプラインを有する  
抗がん剤研究開発に特化した**創薬企業**です

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 会社名   | 株式会社キャンバス                                      |
|       | 英文名： CanBas Co., Ltd.<br>証券コード： 4575           |
| 代表者   | 河邊 拓己（代表取締役社長 M.D., Ph.D.）                     |
| 本社    | 静岡県沼津市大手町2-2-1                                 |
| 設立年月日 | 2000年1月18日                                     |
| 事業内容  | 抗がん剤の研究開発                                      |
| 従業員   | 15名<br>うち 研究開発部門 10名（派遣等による専従者1名含む）<br>管理部門 5名 |

# キャンバスの強み がん免疫に着目したパイプライン戦略

## 中長期の企業価値の源泉として重視

|                                                              | 探索・創出      | 最適化 | 前臨床試験                                          | 臨床試験    | 提携・導出<br>共同研究等   |
|--------------------------------------------------------------|------------|-----|------------------------------------------------|---------|------------------|
| <b>CBP501</b><br>創薬パイプライン型展開                                 |            |     | 第2相試験完了 主要評価項目達成<br>米国第2b相試験開始承認取得・欧州第3相試験開始申請 |         |                  |
| <b>CBS9106</b><br>創薬基盤技術型展開から<br>現在は新開発方針検討中                 | 前臨床試験終了し導出 |     |                                                | 第1相試験完了 | 2025年6月<br>全権利返還 |
| <b>CBT005</b><br>NEXTプロジェクトから創出<br>がんの「治癒」を目指す<br>新たな免疫系抗がん剤 | 前臨床試験準備    |     |                                                |         |                  |
| <b>CBP-A08</b><br>CBP501の系譜に属する<br>ペプチド型免疫系抗がん剤              | 最適化終了      |     |                                                |         |                  |
| IDO/TDO阻害剤<br>ほか※                                            |            |     |                                                |         | 静岡県立大学<br>ほか     |

※ 上記のほか、がん免疫領域で広く基礎研究を展開しています。

※ IDO/TDO二重阻害剤は、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）新規治療薬としての研究も継続（2020年8月4日公表）

# 開発パイプラインの状況

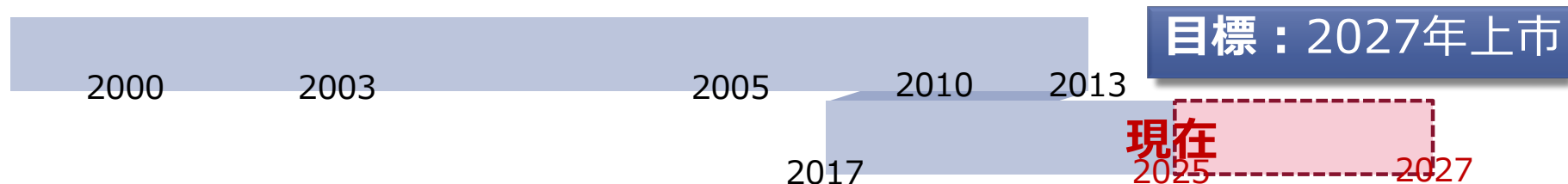
---

# 各パイプラインの歩み・現状・目標

## 研究 | 開発



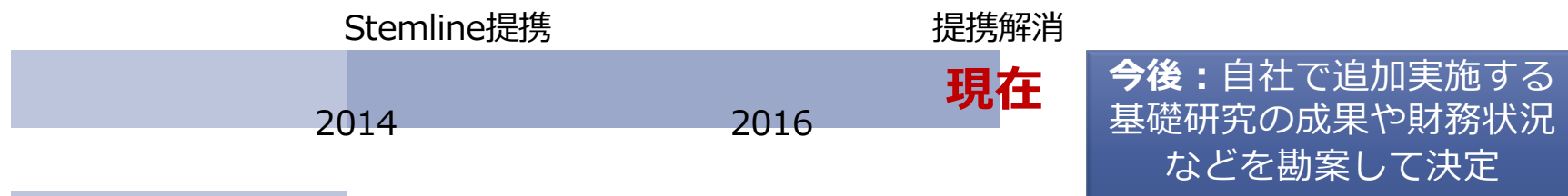
**CBP501**



**CBT005**



**CBS9106**



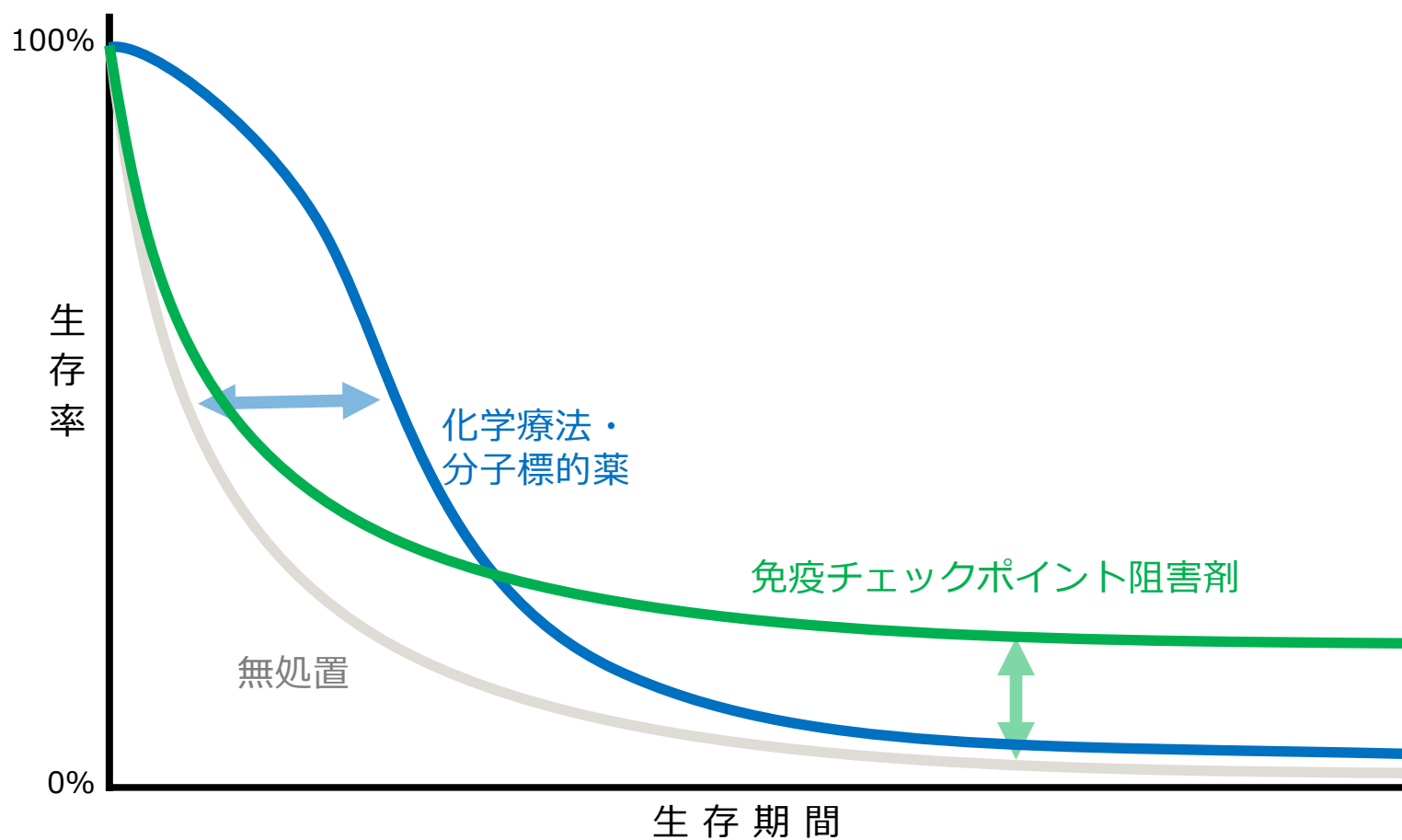
**CBP-A08**



# 免疫着火剂 CBP501

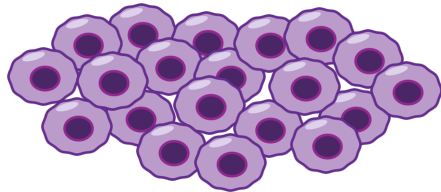
---

# 免疫系抗がん剤は一部の患者様に劇的に効く

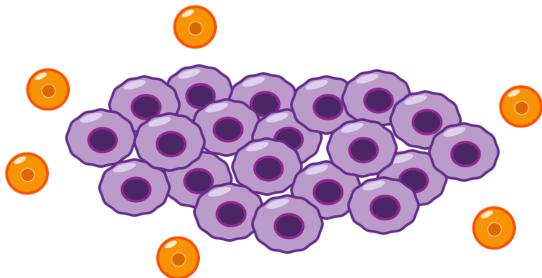


# 免疫系抗がん剤の効きにくい「免疫コールド」ながん

攻撃するための  
T細胞がない  
**免疫砂漠**

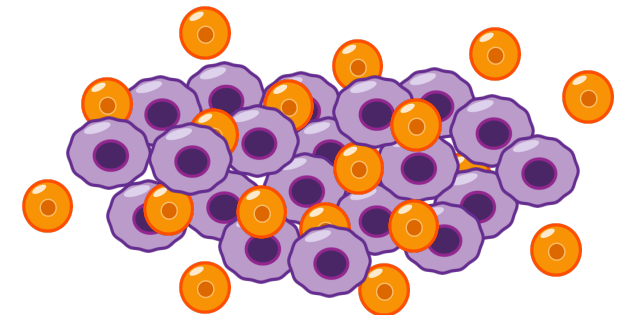


T細胞ががん組織に  
入り込めていない  
**免疫排除**



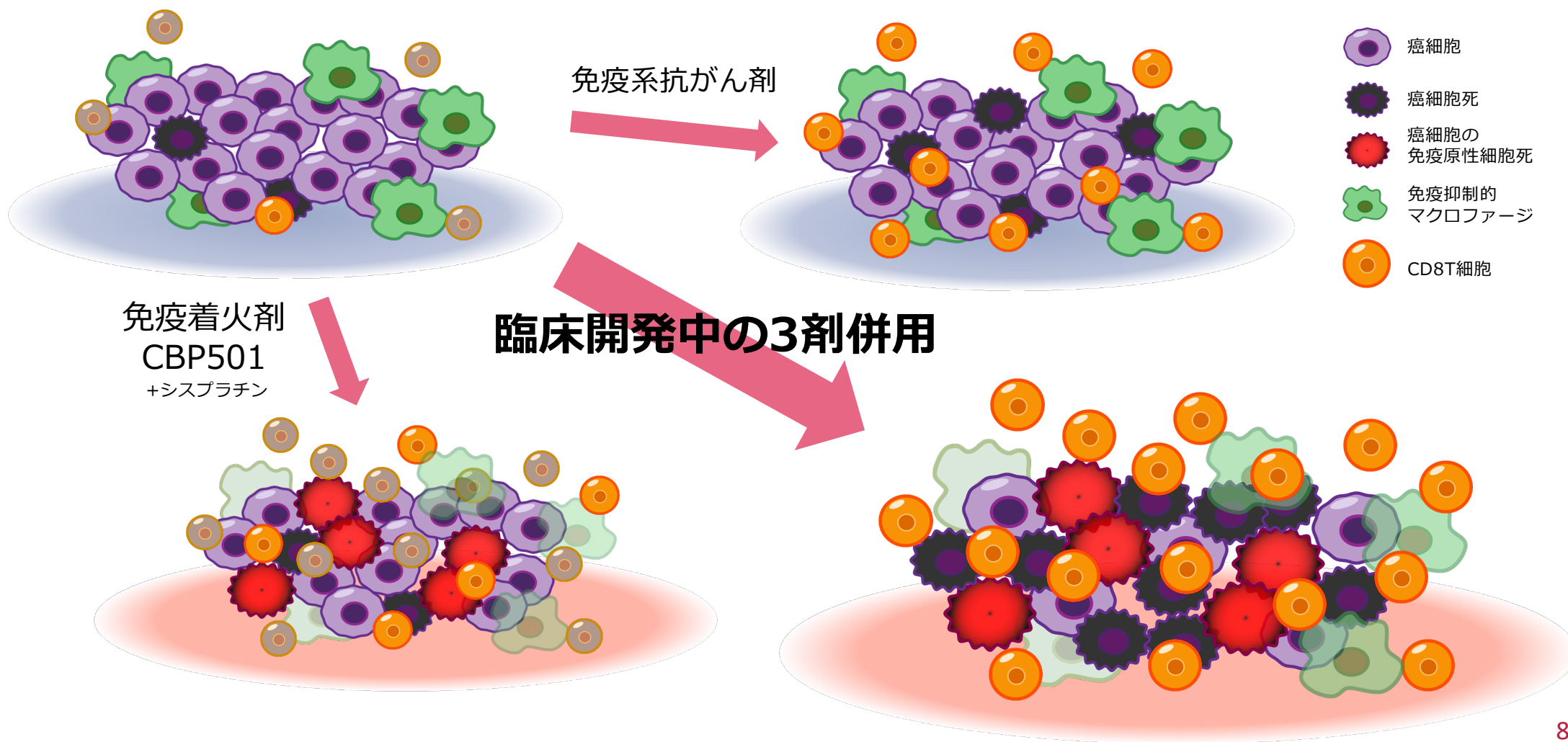
**免疫コールドながんを  
免疫ホットながんに  
変えることが必要**

T細胞が十分に  
がんを攻撃できる  
**免疫ホット**



癌細胞      CD8T細胞

# CBP501の3剤併用で免疫系抗がん剤を効きやすくする



# CBP501 臨床第2相試験結果

---

# CBP501臨床第2相試験データ学会発表

## ポスター発表されたCBP501臨床第2相試験結果

### ➤ 主要評価項目 3ヶ月無増悪生存率

- ✓ 第1群（3剤併用・CBP501 25mg）第2群（3剤併用・CBP501 16mg）で達成
- ✓ 良好な結果を受け、安全性モニタリング委員会はステージ2に進まないことを推奨

### ➤ 副次的評価項目（無増悪生存・客観的奏効率・病勢コントロール率・奏効期間・全生存・安全性）

- ✓ これらに関する解説は[当社ブログ記事](#)（2023年10月24日）をご参照ください

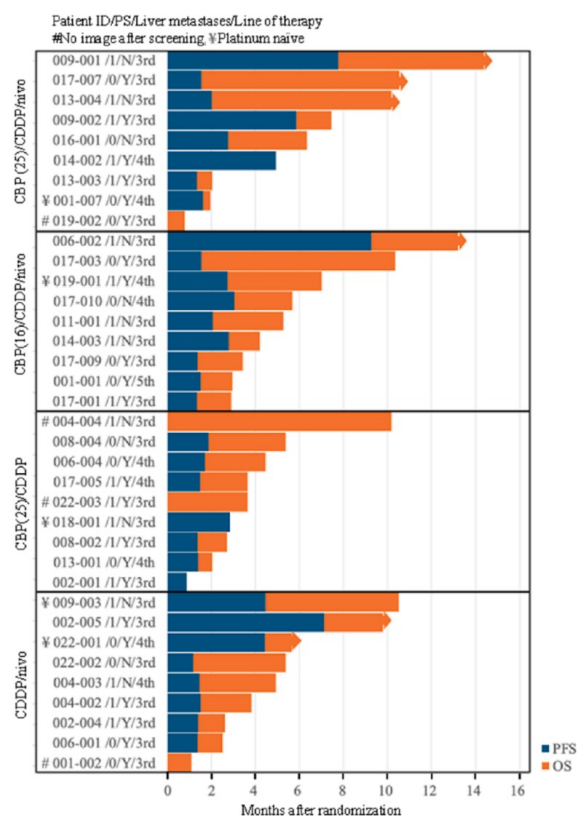
### ➤ 結論

**CBP501・シスプラチン・ニボルマブの併用療法**は、転移性膵臓腺がんに対する3次治療として、**忍容性のある安全性**で、3ヶ月無増悪生存率、無増悪生存期間および全生存期間において、**持続的な奏効と臨床的に意義のある改善**をもたらした。この化学免疫併用療法は、さらなる検討を進めるべきであ

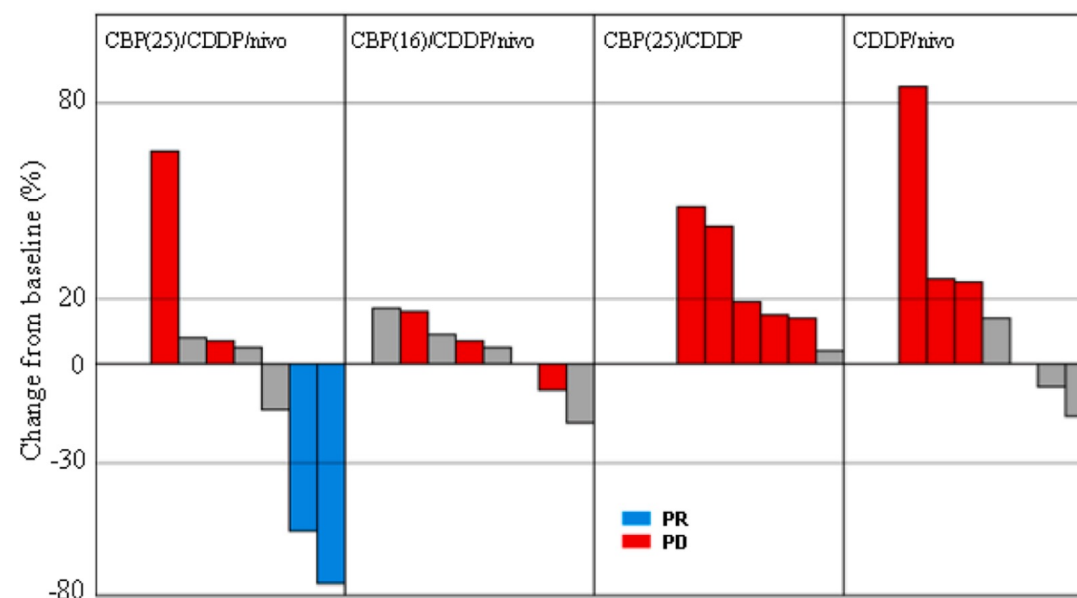
# CBP501臨床第2相試験データ論文発表

European Journal of Cancer誌で論文発表したPFS・OS、腫瘍の縮小

## ■ PFSとOSを示すスマイープロット図

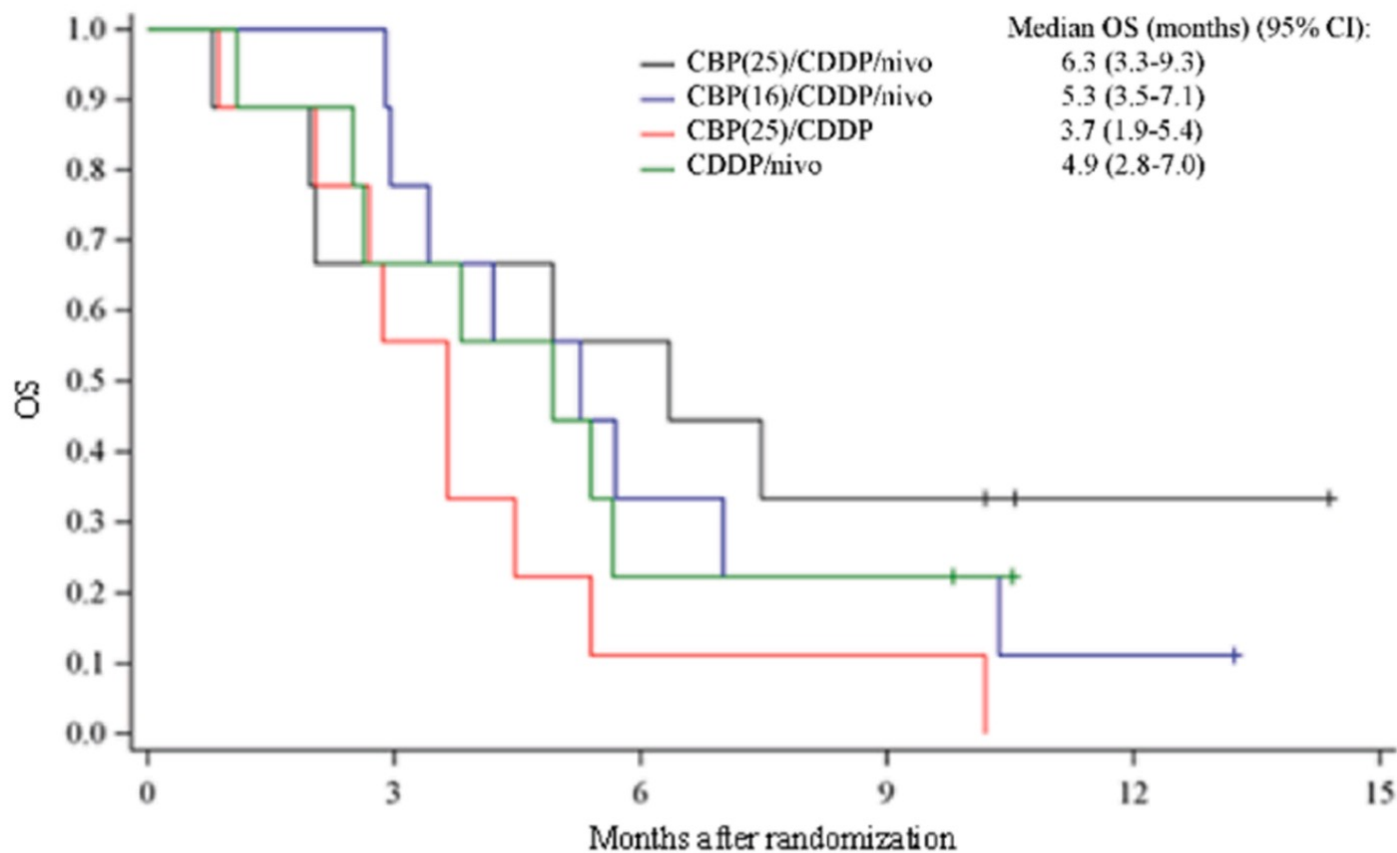


## ■ 腫瘍の増大/縮小を示すウォーターフォール図



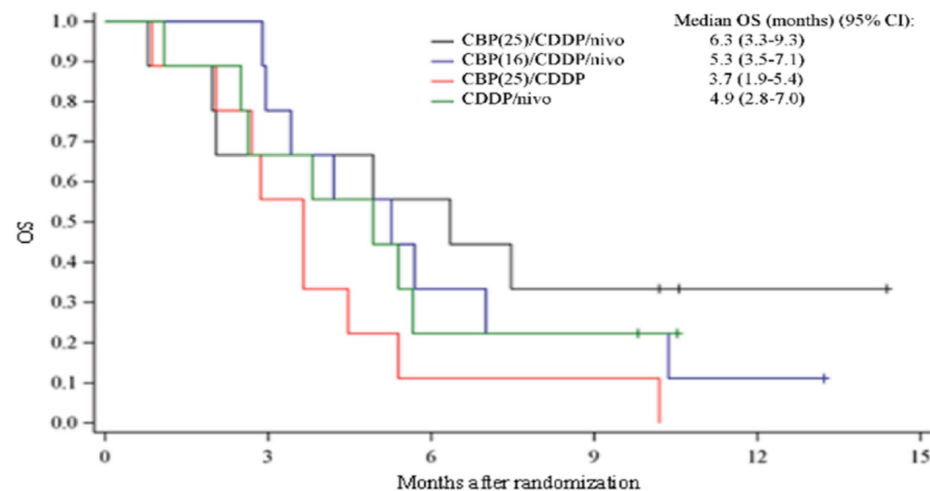
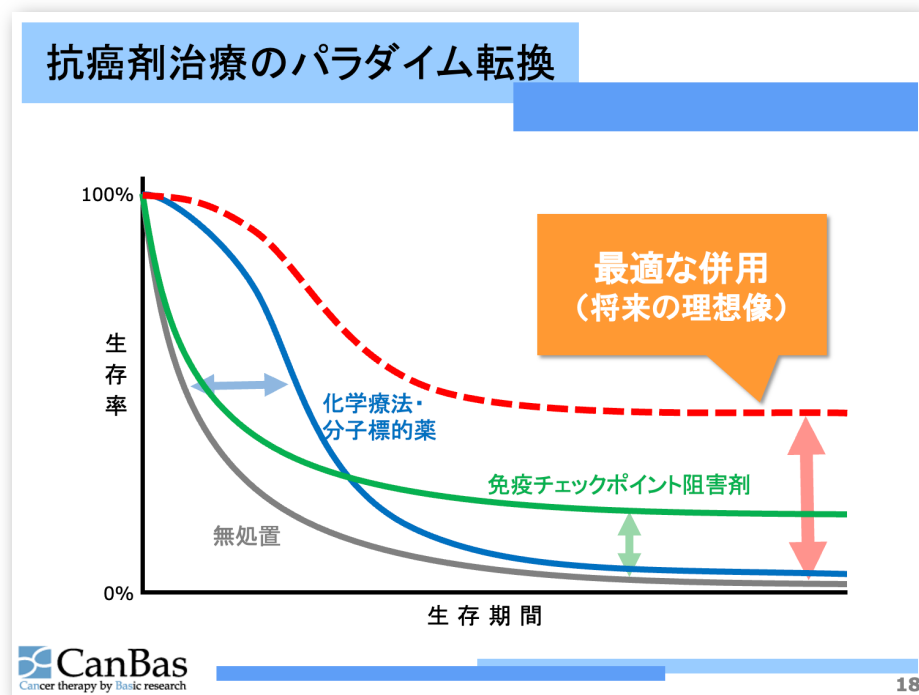
# CBP501臨床第2相試験データ

European Journal of Cancer誌で論文発表した生存曲線



# 目指してきた「最適な併用」への前進

過去の当社プレゼンテーション資料で目指したデータに近づいています



2015年8月 「株式会社キャンバス2015年6月期決算説明会資料」

# CBP501 欧州臨床試験準備

---

# 欧州第3相試験開始申請・準備の現状

## 欧州臨床第3相試験開始申請手続きの現状認識

- 開始承認取得の**時期の不確実性**：当社でコントロール不能な不確実性が存在
- **時期以外の不確実性**：顕在化のおそれは低下
- 開始承認受領から開始に向かうための準備は進んでいる
- **時期以外**でも状況が悪化したときは米国移行を検討。**現状はその兆候なし**

## 欧州試験開始最優先を継続

- 第3相試験費用見通しは現時点で45-50億円（2023年ファイナンス時の想定に変動なし）
- **初期の目標（2027年承認・上市）実現可能性は変化なし**

## 引き続き経営資源を欧州臨床試験開始に集中

- 念のため米国第2b相試験はペンディング継続

## 時期以外の不確実性への対応

### 欧州第3相試験開始申請の長期化が見込まれる場合

- 欧州開始申請と並行し、念のため米国第2b相試験を1stステージ（中間解析）まで進める判断



中間解析までの開発費  
約17.5～20億円

### 欧州第3相試験が始められないと見込まれる場合

- 欧州当局との協議は継続しつつ米国第2b相試験完了まで進める判断



2b相終了までの開発費  
約32.5～40億円

第3相開発費用  
約40～60億円か

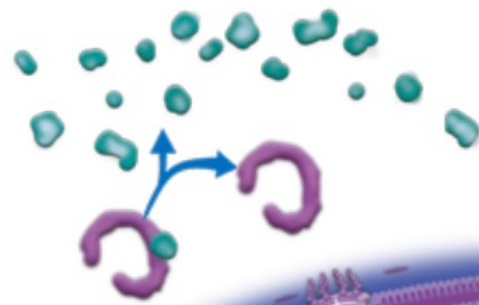
 なお現時点では、米国臨床第2b相試験への移行検討は不要な状況と考えています

# 可逆的XPO1阻害剂 CBS9106

---

# XPO1阻害による抗がん活性のしくみ

## XPO1による核外排出



核膜孔  
複合体  
(出入り口)

XPO1 (exportin 1)

XPO1は、がん抑制因子、細胞周期阻害因子、転写因子など、がん細胞にとって都合の悪いさまざまな蛋白質を核外へ運び出しています

## Felezonexor (CBS9106) によるXPO1阻害

Felezonexorは、がん細胞の細胞周期停止とアポトーシスを誘導することが示されており、固形がんおよび血液がんに対する傷害性を有します

Felezonexor

核内の  
蛋白質と  
XPO1の  
結合を  
ブロック

Felezonexorは、XPO1による核外排出を可逆的に阻害する低分子化合物です

# CBS9106 ライセンス契約解消・全権利返還と今後

## Stemline社とのライセンス契約経過

- 2014年12月 日中台韓を除く全世界を対象にライセンス導出
- 2018年8月 ライセンス対象地域を上記地域を含む全世界へ拡大
- 2025年6月 ライセンス契約を解消し、開発及び商品化に関するすべての権利が当社に返還

## ライセンス契約に基づき受領済みの収益

- 契約一時金・・・2014年12月 10百万円、2018年8月 5百万円 それぞれ受領済
- 技術アドバイザリーフィー・・・2014年12月～2021年6月 累計702百万円 受領済

## 今後の展開

- 返還手続き終了後、当社は具体的な臨床開発計画を策定するための基礎研究を実施  
(基礎研究費予算の範囲で実施するので短期的な業績への影響なし)
- 今後、追加で実施する基礎研究の成果や会社の財務状況などを勘案して、開発方針を検討

 臨床第1相試験を有望なデータとともに終了

 「安全性」「有効性」「使いやすさ」でXPO1阻害剤の**ベスト・イン・クラス**へ

➤ 上市済みのXPO1阻害剤：XPOVIO(Selinexor) 米国Karyopharm社  
適応：びまん性大細胞B細胞性リンパ腫・多発性骨髄腫

- ✓ XPOVIOは副作用が多く、適応も血液癌の一部に限られている  
直近の臨床試験（STORM study、多発性骨髄腫対象）  
・・・89%の患者でグレード3以上の重篤な副作用報告、少なくとも2例の死亡報告

➤ CBS9106の優位性

- ✓ 安全性：最大耐用量の高さ（Stemline社による臨床第1相試験、ESMO2020報告）  
・・・背景には、CBS9106のXPO1分解作用\* による副作用の小ささ
- ✓ 有効性：複数の固形がんで薬効の兆候（Stemline社による臨床第1相試験、ESMO2020報告）
- ✓ 使いやすさ：臨床現場で使いやすい経口剤

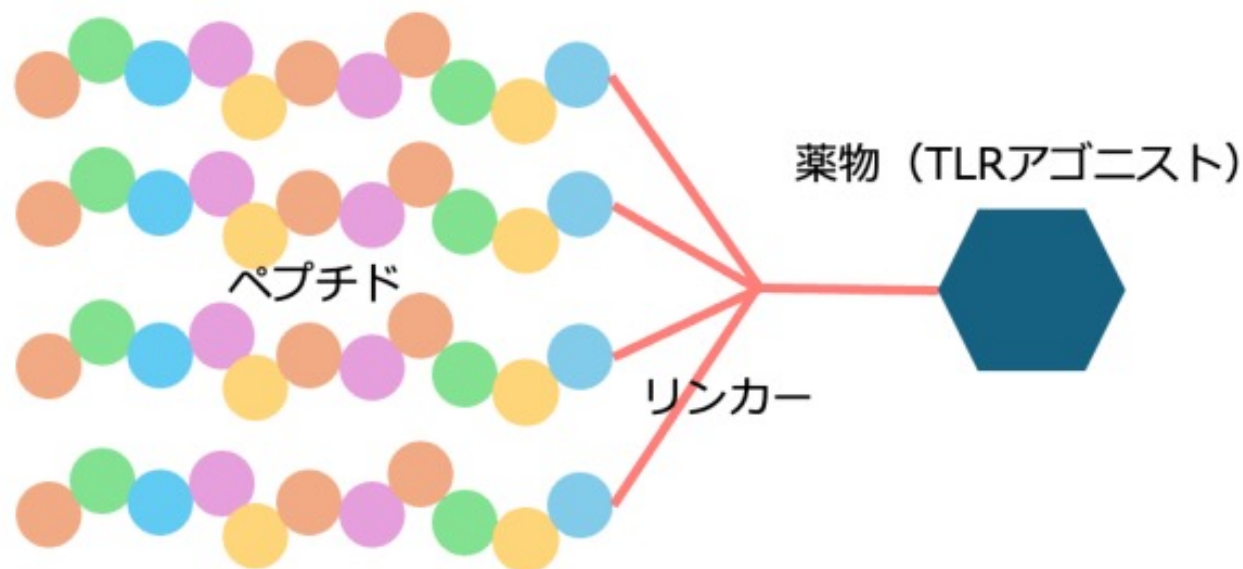
\* CBS9106は、XPO1による基質輸送を阻害したあと、XPO1を分解することがわかっており、細胞は新たなXPO1を産生して正常な機能を保とうとするため、副作用の小ささが期待できる。

# 免疫スイッチ作動薬 CBT005

---

■ ホスファチジルセリンに結合するペプチド4つと  
薬物をリンカーで結合させた**PDC** (Peptide-Drug Conjugate)

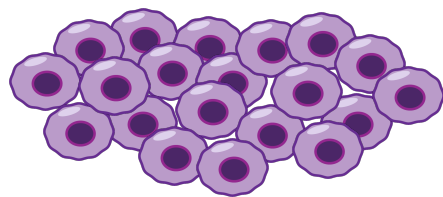
- 狙い：死にかけたがん細胞の新生抗原を利用して免疫スイッチを切替える
- 模式図



# 免疫系抗がん剤の効きにくい「免疫コールド」ながん

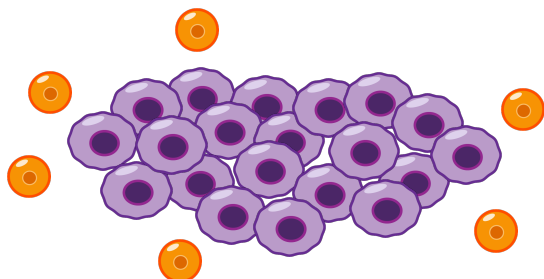
攻撃するための  
T細胞がない

免疫砂漠



T細胞ががん組織に  
入り込めていない

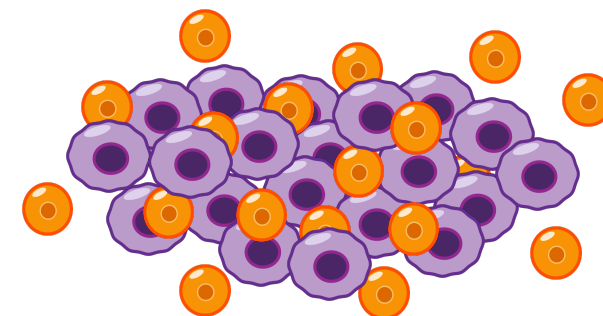
免疫排除



免疫コールドながんを  
免疫ホットながんに  
変えることが必要

T細胞が十分に  
がんを攻撃できる

免疫ホット



癌細胞

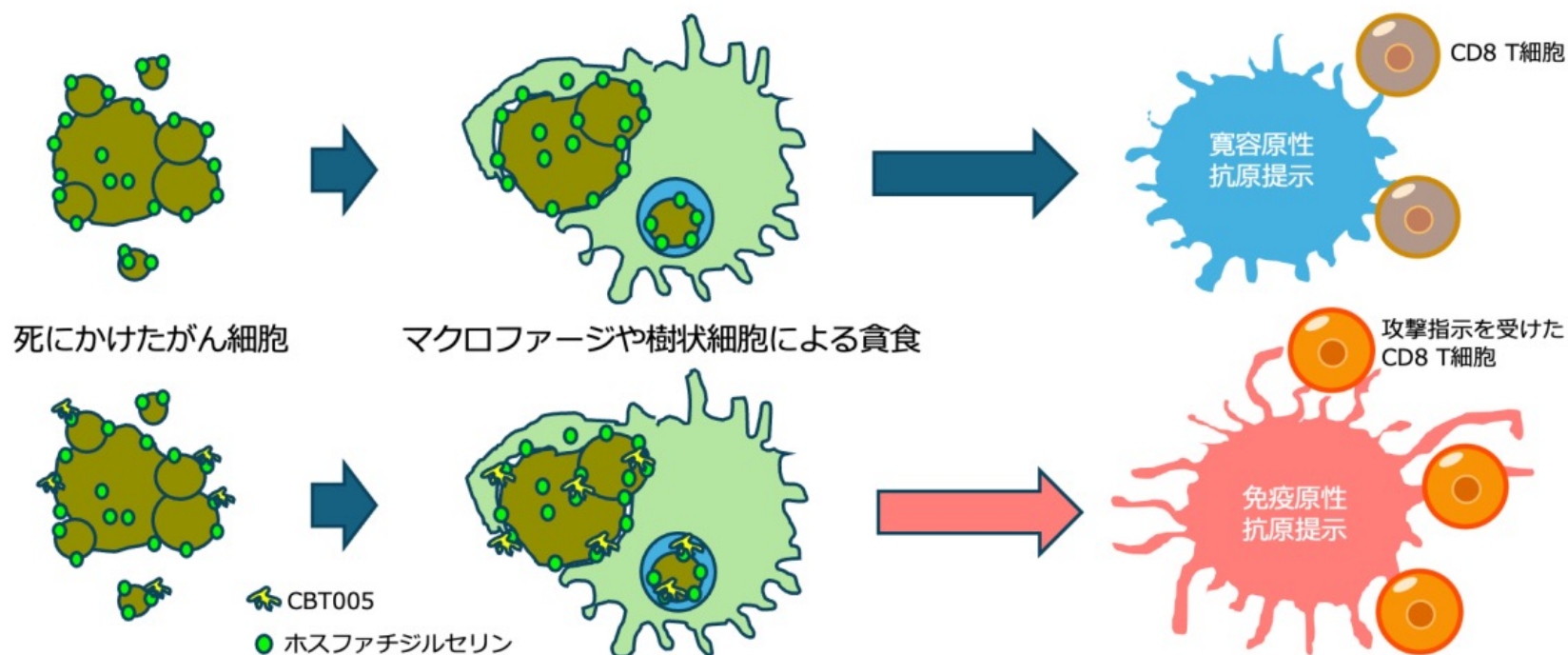


CD8T細胞

## 免疫スイッチ (ImmunoSwitch)

- 抗原提示細胞のTLRを活性化し、T細胞への指示を「**攻撃する**」に切替える

《想定している作用機序》



# 臨床試験前段階の研究開発

---

# 基礎研究～非臨床試験段階のプロジェクトの状況

## 基礎研究～前臨床試験準備段階のパイプライン (ピックアップ)

### ➤ IDO/TDO二重阻害剤

- ✓ 静岡県立大学と共同研究で最適化を進行中。日本・米国で特許成立（2023年6月6日・2024年9月10日公表）
- ✓ ファルマバレーセンターによるアライアンス活動開始（2025年4月2日公表）

### ➤ CBP-A08

- ✓ 最適化を完了し、財務状況等を勘案し前臨床試験開始を模索

### ➤ NEXTプロジェクト

- ✓ 新たなコンセプトの免疫系抗がん剤候補化合物の探索創出
- ✓ インテージヘルスケアとAI（人工知能）を利用した創薬共同研究（2024年12月25日公表）

### ➤ 抗がん剤感受性予測システム

# 2025年6月期決算・財務の状況

# 2025年6月期の業績 (1)損益計算書

## 2025年6月期損益計算書のポイント

- 事業収益計上なし
- CBP501臨床開発を中心に研究開発先行投資

✓ 事業費用 1,109百万円の内訳：

基礎研究費\*1 216百万円 臨床開発費\*2 603百万円 販管費 289百万円

基礎研究費は前年比約13%増（CBS9106ライセンス契約ターミネーションフィー約12百万円を含む）、  
販管費ほぼ前年並み。臨床開発費の大半はCBP501欧州臨床第3相試験の開始準備に関する費用

✓ 営業外損益（受取利息・為替差損・株式交付費）

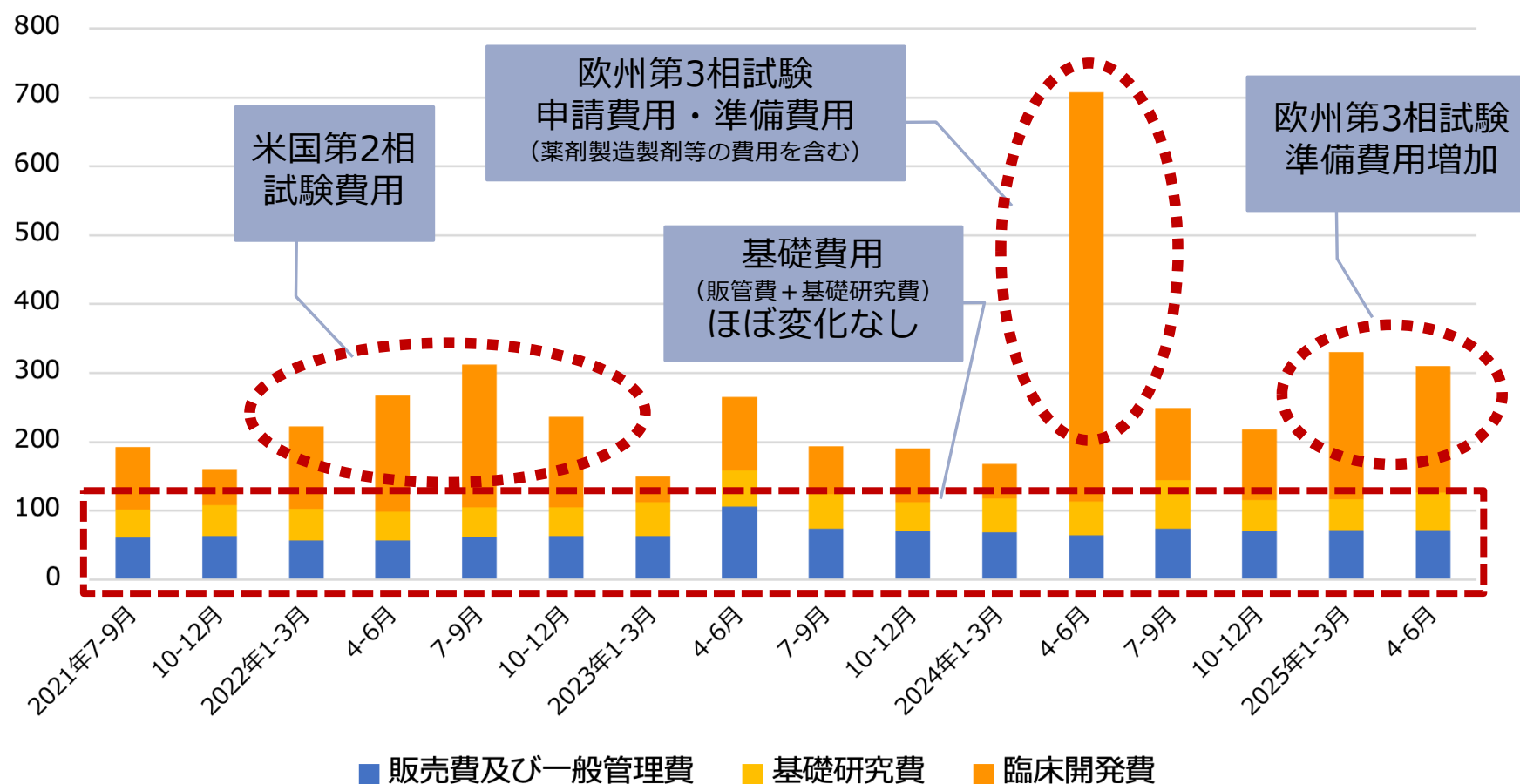
|           | 2025年6月期   | 前年比         | 注 |
|-----------|------------|-------------|---|
| 事業収益（売上高） | — 百万円      |             |   |
| 営業利益      | △1,109 百万円 | 損失減 153 百万円 |   |
| 経常利益      | △1,156 百万円 | 損失減 52 百万円  |   |
| 当期純利益     | △1,157 百万円 | 損失減 52 百万円  |   |

\*1 共通の人員・設備・消耗品等が多数あるため、基礎研究段階のプロジェクト個別の費用内訳は算出していません。

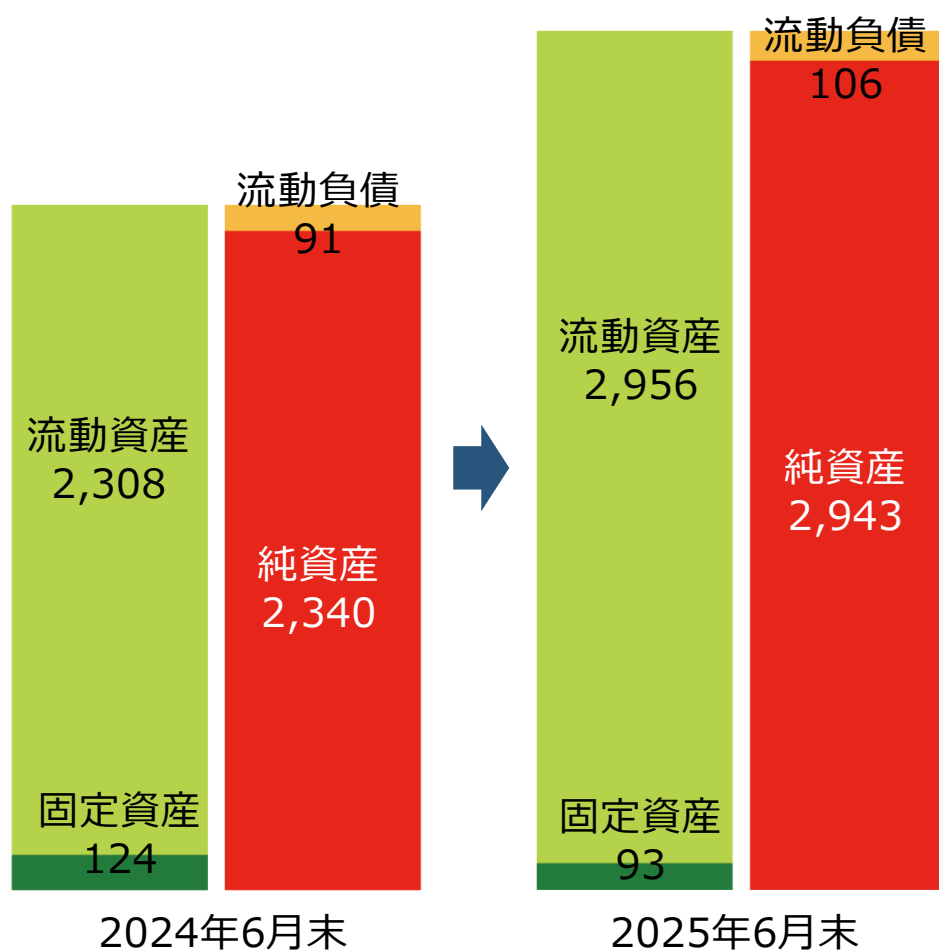
\*2 臨床開発費は全額がCBP501関連の費用です。CBS9106・CBT005に関する費用はありません。

# 事業費用は主に臨床試験費用で増減

## 四半期会計期間の事業費用推移（単位百万円）



## 2025年6月期の業績 (2)貸借対照表の推移 (単位：百万円)



### 2024年6月期末からの主な変化

#### ➤ 流動資産

- ✓ 現預金 1,888 → 2,827
  - (-) 当期純損失
  - (+) 新株予約権行使による資金調達

#### ➤ 純資産

- ✓ 株主資本合計 2,304 → 2,911
  - 新株予約権行使による資金調達が営業CFのマイナスを上回る

\*百万円未満切り捨て表示のため合計などが一部一致しません。

# 企業価値評価向上への施策

---

$$\times \quad \text{ディスカウント} \quad = \quad \text{足元の市場評価}$$

企業価値  
||  
成功時の  
パイプライン  
価値の  
総和

 一般的ディスカウント要因

- 成功確率
- 時間価値

 当社/創薬に特有の要因

- 開発継続資金の懸念
- 評価の困難性
  - ✓ 一般に代替的評価方法とされてきた製薬企業提携の有無や内容が使えない
- 情報開示の制約
  - ✓ 臨床試験情報
  - ✓ 規制当局との協議内容

 足元の市場評価が変化した要因

- パイプライン価値の周知
- 開発継続懸念などディスカウント要因が薄れた
- 開発進捗の内容が見え、その価値評価が企業価値評価に反映され始めた

 **市場評価のさらなる向上に向けて**

- **開発のさらなる進捗と成果の公表**
- **丁寧な投資家リレーション**
- **開発資金と継続性を維持する資金や体制の確保**

# CBP501パイプライン現在価値評価を動かすもの

## 利益実現までの開発期間・成功確率・不確実性

### ➤ CBP501臨床第3相試験を完遂できるか

- 欧州臨床試験開始承認獲得の期待（時期の不確実性）
- 試験期間の見通しと成功確率
- 開発環境や開発資金の確保

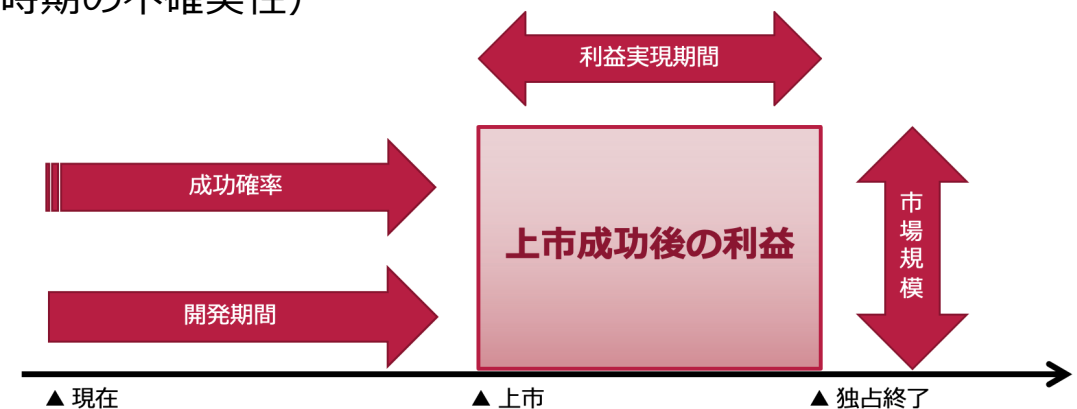
### ➤ 新薬承認を獲得できるか

- これまでの良好な臨床試験データ

## CBP501上市成功後の利益

### ➤ 臨床第3相試験成功時の成功規模

- 欧州ほか主要市場の患者数・薬価・シェアなど。長期的な市場の変動も考慮
- 他のがんへの適応拡大の期待
- オーフアン指定による欧州10年・米国7年の独占保護



# 開発資金確保に関する認識

---

## 2023年ファイナンス：概ね成功裏に完了

- 第三者割当増資・新株予約権行使の合計で40億円超の調達
  - ✓ 7.3億円の確実なアップフロント調達
  - ✓ 新株予約権での調達は約33億円にとどまったが、株価への短期的なインパクトを抑制しつつ平均行使価額1,015.1円（下限行使価額+約4.5%）で段階的調達を実現

## 今後：臨床第3相試験開始資金に問題はなく、状況に応じ判断・対応

- 第3相試験資金需要と支出時期の不確実性
  - ✓ 当初の見込費用45～50億円
    - 一部は既に支出済み。今後、試験開始時期・プロトコル・実施施設数・被験者組入ペース等によって、費用と支出時期は変動
- 追加資本政策を検討する場合のポイント
  - 株主価値の毀損や希薄化を可能な限り回避・抑制するタイミングと方法を追求

# 今後想定されるニュースフロー

## ■ 欧州臨床第3相試験開始承認受領

- 時期には不確実性があります
  - 時期以外の不確実性は（予断は許さないものの）着実に減少しつつあります
- ↑ これらについては[ブログ記事](#)をご参照ください

## ■ 臨床試験

- 臨床試験実施施設オープン（～50施設を計画）＝ 被験者募集開始
  - ✓ 開始承認受領から実施施設オープンに至る期間をより短縮するための準備も進捗
    - ・ 開始承認獲得を待たずに契約締結できる5カ国約30施設のうち半数以上と既に主契約締結済み
- 最初の被験者への投与（FPI）

# キャンバスを知る情報源

---

# キャンバスを知る情報源

- ウェブサイト <https://www.canbas.co.jp>
  - マネジメントブログ <https://www.canbas.co.jp/blog/>（不定期更新）
- X（旧Twitter）公式アカウント <https://twitter.com/canbas4575>
  - フォロワー7,000人超。主に個人投資家向けの情報発信/Q&Aチャネルとして定着
- アナリストレポート
  - フェアリサーチ 2025年3月6日最新版『[薫風かおる季節を前に朗報を待つ](#)』
  - シェアードリサーチ（随時更新） <https://sharedresearch.jp/ja/4575>
- TV・インターネット番組等出演
  - 2024年6月期決算説明会動画・テキスト（[2024年8月20日開催](#)）
  - アイロゴス主催 櫻井英明WEB株式講演会&企業IRセミナー  
[2025年2月22日開催](#)（河邊登壇） [2025年6月18日](#)（加登住登壇）



■本資料に関するお問い合わせ先： 株式会社キャンバス 管理部 IR担当 Email [IR@canbas.co.jp](mailto:IR@canbas.co.jp)